

第 100 回奈良県河川整備委員会 議事概要

日時：令和 4 年 3 月 23 日（水）10 時 00 分～12 時 00 分

場所：ホテルリガーレ春日野 1F 吉野の間

出席者：

【委員】 川池委員（委員長）、伊東委員、岡崎委員、久保田委員、倉橋委員、河本委員、小林委員、庄田委員、舘野委員、福井委員、堀野委員

【事務局】 奈良県県土マネジメント部 河川整備課

議事：

- (1) 第 99 回奈良県河川整備委員会の議事概要について
- (2) 委員からの意見の対応について
- (3) 進捗点検について（淀川水系（奈良県域）・紀の川水系（吉野川））
- (4) R4 環境モニタリング調査結果について

(1) 第 99 回奈良県河川整備委員会の議事概要について

○川池委員長 第 99 回河川整備委員会の議事概要を確定する。

(2) 委員からの意見の対応について

【淀川水系山田川】

○久保田委員 ゲンジボタルは 5 月終わりから 7 月中旬ごろの日没から 45 分ごろから飛び始めるといふ。整備後に生息場所に街灯の光を当てないように工夫してほしい。他河川において街灯が整備された箇所ではゲンジボタルが減ったケースがある。

→道路管理者と情報共有しながら検討したい。

○河本委員 どの箇所でもどのような整備を行うとゲンジボタルの生息に効果的か、全体的に検討してほしい。

→背後地の状況を踏まえて、ゲンジボタルやカワニナが生息できるように配慮していきたい。

○川池委員長 山田川の河川付け替え後の跡地利用として紹介されている事例について、口頭で説明された内容を資料に記載したほうがよい。

→承知した。

○川池委員長 前回の事業再評価の資料において、関係市町村に奈良市を追記したという認識であるかどうか。

→そのとおりである。

【淀川水系宇陀川】

○川池委員長 宇陀市大宇陀岩室西山での景観については意見が多く、改修が完了したものの経過観察する必要があるため、5 年後の委員会でも議論できるようにしておいてほしい。

→今後のフォローアップが必要であると認識しており、5 年後も議論していただくようにする。

○河本委員 時間の経過にともない景観がよくなっていくという希望はあるが、工事直後に印象

が悪いのは良くないと思うので、他の箇所においても、明度の低い石や植生の繁茂しやすい資材の採用を検討されたいかがか。

→例えば、玉石だと空隙に堆積した土から植物が生育するという期待もある。環境面、コスト等を総合的に判断して事業に取り組んでいく。

○河本委員 護岸に採用している資材について、小さな看板で自然石であることを説明すると印象が変わると思うがいかがか。

→今のところそこまでは考えていないが、経過を観察し検討する。

(3) 進捗点検について

【全体】

○岡崎委員 今年度は、春の終わり～夏の始まりである 5 月の最も種数が確認できる時の調査となり、100～200 種という結果を把握できる状態になったため、この形を継続してほしい。

→令和 4 年度の調査についても、環境調査を行う委託業者と早期に契約できるように努力している。また、令和 4 年度の契約からは、次年度の春の調査がより早期にできるよう、年度をまたがった契約とする予定である。

○久保田委員 ゲンジボタルの保全を目指すなら、成虫の飛翔調査により実態を把握する必要がある。また、紀の川の流域ではカジカガエルがよく鳴いているが、近年、その姿を見ることが少なくなってきた貴重な生き物の一つである。奈良県が誇る吉野地方の自然景観とも考えられる。環境の状態を示す指標となるため、事業による変化を評価できることにつながると思う。地元への聞き取りや鳴き声の有無を確認する調査で良いので実施すべきと思う。

→御意見を参考に、よりよい調査、よりよい環境となるよう努力する。

○河本委員 出前講座を受ける人の参加数を増やす努力をしてくれているが、出前講座を受ける機会のない子どもたちのために、奈良県ホームページでの情報をもう少しわかりやすくしてほしい。

→今後見直していきたい。

○川池委員長 出前講義や対面は、ホームページでの情報で不足するところを補う役割もあると思う。ホームページで載せるコンテンツなど、河本委員と意見交換したらよいと思う。

○舘野委員 点検結果の項目に、点検結果を書いているのか方針を書いているのかわからない箇所が多数あるので見直してほしい。

→整備済みのところは「整備がされている」、計画段階のものは「計画になっている」など、表現を修正してわかりやすくする。

【淀川水系山田川】

○堀野委員 山田川の対照調査区間が整備区間の環境と合致するとは思えないため、例えば、下流側に移すことは難しいのか。

→対照調査区間としているのが一級河川上流端で水量が比較的少ないという状況であるため、モニタリングという意味では指標が変わるかもしれないが、同じような状況の箇所ということで下流側に寄せることができないか検討したい。

○岡崎委員 対照調査区間の設置の目的が、工事を実施する区間と工事をしない区間の変動を見ることによって、工事による影響か気候変動による川全体への影響かを確認するということ

であり、共通種が多いことだけが選定条件ではないと理解している。事務局で、対照調査区間の設定経緯を確認してほしい。

→過去の経緯等をもとに、対照調査区間の意味を整理する。

【紀の川水系】

○河本委員 「進捗点検時の意見と対応方針」について、紀の川水系での記載が少ない。例えば、私が意見した、おいの池の説明看板を川におりるスロープに設置することや、大淀町下淵の改修の際に下市町側からの景観に大きな影響を与えることから下市町への説明の必要性について記載してほしい。

→おいの池については、河川管理上制約があるが、何かできないか考えたい。下市町への説明については資料に反映させる。

○河本委員 住民や来訪者がわかりやすいように、歴史的な景観や自然環境等、配慮がわかるようにフォーマット化された表示を作るとよい。

→意見を参考にする。

○久保田委員 アユは吉野の人たちの生活に大事な生物だと思うが、アユの漁獲高などの実態は把握しているか。

→関係する部署に確認して、検討する。

○河本委員 大淀町下淵について、整備対象区間と整備対象区間を対策するために実際に工事する範囲の違いがわかりにくい。

→わかりやすい記載に修正する。

(4) R4年環境モニタリング調査計画について

○倉橋委員 写真のタイトルに撮影時期を記載したほうがよい。

→承知した。

○久保田委員 今後の事業を考えるためには浸水想定区域に関する資料が参考となるため、河川整備委員会で示すべきと思う。

→次の生駒いかるが圏域での進捗点検の際には、浸水想定区域図等を紹介したい。

○堀野委員 整備済みの工区が選定されていないがなぜか。

→まずは、新規に事業を進めていく箇所を対象とし、対照調査区を設置するという考えである。

その次の段階として、整備済みのところも環境調査をしていく必要があると考えている。

○小林委員 出水前後で環境モニタリングをして、魚の逃げ道があるかという調査は一般的にあまりしないのか。

→出水前後の生物調査は、現実的に厳しいと思う。タイミングがあれば、出水前後の視点も置ければと思う。

○川池委員長 あくまで河川整備によって比較的長期的な変化を追っていくための調査ということと考える。

以上